

## 無料講座「教室の教え方3つのポイント」第1回

イチジャン・ドットコム の須藤です。

無料講座「教室の教え方3つのポイント」をお届けします。  
今回は、第1のポイント「伝えるために大切なこと」です。

マー جان教室教え方のコツを、お教えします。

---

イチジャン・ドットコム こうやって教えればよかったのか！  
「教室の教え方3つのポイント」  
第1のポイント：「伝えるために大切なこと」

---

いざ教えるとなると、つい自分1人で話を進めてしまっていることが多くなりがちです。

生徒さんも「うんうん」とうなずいてくれるものだから「完全に教えたぞ！」  
と思ってしまうのですが、いざ実戦を行うと「全然わかってない」  
なんてこともしばしば。

なぜ？ どうして？

これには、主に2つの理由が挙げられます。

「この2つの理由とは何か？」「それを避けるにはどうすればいいか？」

このことについて今日はお話します。





1つ目の理由。それは

「何を言っているのか意味が分からない」

「ひええ～。意味が分からないって、そんな～」ですよね。  
わかりやすく丁寧な言葉で言っているはずなのに・・・。  
ちゃんと日本語を言っているのに・・・。

ちゃんとした日本語？ 実はここに問題があることが多いのです。  
いや、文法がどうかというのではなく・・・。  
ズバリ聞きます。中国語を使っていませんか？

つまり、専門用語（マージャン用語）を使っていませんか？

例えば、初めてマージャンをする生徒さんに  
「  に  を持ってきたら、 を捨てると良いですよ」と説明  
するときに、どうやって説明しましょうか。

「スーソーだけのカンチャン待ちから、イースーソーのリャンメン  
待ちに変えると良いですよ」などと言っていないか？

これでは、ほぼ100%伝わりません。  
生徒さんは「スーソー？ カンチャン？ イースーソー？ リャン  
メン??」  
意味が分からないので、そこを飛ばしてみると

「○○の■ ■待ちから、◇◇の××待ちに変えるといいですよ」

何も分からない・・・。

これでは伝わりようもないですね。

最初のうちは、使う用語を最小限に留める必要があるのです。

専門用語を使うと、その分野のことを知らない人に対して「私はこんなにすごいんだぞ」と、優越感を抱くこともできるでしょう。しかし、生徒さんにしてみれば、分からないことだらけになってしまい、とてもつらい思いをさせてしまうのです。

ただでさえ初めて聞く用語が多いのですから、「これだけは絶対に覚えてほしい」というもの以外は、使わないようにしましょう。

生徒さんは、それが大切な用語なのか、今は覚えなくてもいい用語なのか区別ができません。

初めての生徒さんには、「カンチャン」や「中国語の数字の読み」などは教えない方が良いでしょう。

「あいだ待ち」「竹の1」で十分ですね。

この言葉は知らなくても、大して困らないでしょう？

最初のうちは、本当に覚えて欲しい言葉だけを、徹底的に覚えてもらいましょう。

そうしないと、本当に覚えて欲しい言葉すら、覚えられなくなってしまいます。

このことには十分注意しましょうね。

自分が普段使っているからと言っても、相手には分からない言葉なのですから。

上の説明を初めての方にするなら、このような感じになります。

「今、3 5（さん・ご）とあるから、4（よん）が来れば3枚そろいますよね。

ここに2が来ました。

ここで5（ご）を捨てると、1（いち）が来たときには1 2 3（いち・に・さん）で3枚そろいます。

そして、4（よん）が来ても2 3 4（に・さん・よん）で3枚そろいますよね。

さっきは4（よん）だけが欲しかったのに、5（ご）を捨てると、1（いち）が来ても、4（よん）が来ても3枚そろうようになりましたよね。

だから、ここでは5（ご）を捨てるといいのですよ」

専門用語を一切使わずに説明できました。

ここまでやって、ようやく意味が通じるようになるのです。

では、続いて2つ目の理由です。次の理由はこちら。

=====

「左の耳から右の耳に言葉が通り過ぎてしまっている」

=====

・・・まあ、これは誰でも身に覚えがあるのではないのでしょうか？  
学校の授業で先生が言ったことを、全部理解して聞いていたら、  
今ごろ大天才ですよ。

たいてい、左から右・・・ではありませんでしたか？

どんなに好きなことを習っていても、ずっと「うん。うん」と話を  
聞いていると、頭に入って来なくなる瞬間が出てきます。  
それが一定のリズムだったりすると、ついウトウトとなんてこと  
も・・・。

でも先生は一生懸命お話しているし、せめて「うん。うん」って  
言ってあげないと悪いわと思ってしまうのでしょうかね。

その結果、練習に移ったら全然分かっていないなんてことが出てし  
まうのです。

では、そうなることを避けるには、どうすればいいか。

これを避けるためには、生徒さんに話を振ってあげればいいのです。

「何故か知っていますか？」「いくつでしょう？」「どうでしょ  
う？」という具合に。

こうするだけで、格段に理解が深まります。

自分が関わったものには、より強く気持ちが引かれていくことを、心理学の用語で「自我関与効果」と言います。

手品などで「何もありませんね」と、確認させたりしますよね。あれも、自我関与効果です。

そうやって、観客の意識を手品に持っていかせるわけですね。ただ話を聞くよりも、自分が積極的に関わったことの方が記憶にも残りやすいので、どんどん話を振ってあげてください。

また、いつ話が自分に振られるか分からないので、生徒さんもボーっとしていられなくなります（笑）。

さらに、これは「そんなこと知っているわ」とあんまり聞いていなさそうな生徒さんにも効果があります。

例えば「マージャンは3枚1組を4つと、同じもの2枚のアタマを1つ作るゲームです」  
などと言ったときに「そんなこと知っているわ」という感じで、あまりよく聞いていない生徒さんは必ずいるものです。

しかし、ここである一言をいうと、今後全ての話を聞いてくれるようになってしまう。  
そんな魔法の言葉があるのです。

その魔法の言葉とは何か。

それは  
「何でこの2枚1組をアタマと言うか知っていますか？」です。

ほぼ間違いなく知らないでしょう。

「えっ？ 知りません」

「それはね・・・」

こうやって、話に巻き込んでいくわけです。

これでもう

「私が知っていると思っていたところでさえ、まだまだ知らないことがあったのね。もっとしっかり聞かなくちゃ」という態度に変わってしまいますよ。

この空気が変わる瞬間は、はっきり言って快感です。  
みなさんも、ぜひ経験してくださいね。

補足ですが、なぜアタマというか、皆さんは知っていますか？  
実はマージャンの4メンツとは、「胴体・右の羽・左の羽・尾っぽ」を表していて、アタマは文字通り「鳥の頭」。  
マージャンとは4メンツ1雀頭そろって、鳥になって飛べたら勝ちとなるゲームなのですね。

胴体などに比べて、アタマは小さいから2枚で1組というわけです。

以上2点。第1のポイント「伝えるために大切なこと」でした。  
講義をするときには、気をつけてみてくださいね。

麻雀教室レッスンマニュアル「3ヶ月で教える初級麻雀教室」

<http://www.1jann.com/teach/manual.html>

---

イチジャン・ドットコム こうやって教えればよかったのか！

「教室の教え方3つのポイント」

第1のポイント：「伝えるために大切なこと」

有限会社イチジャン・ドットコム

須藤 浩

<http://www.1jann.com/>

---